

「ありがとう40年～いのち輝かせ、未来へ～」※40周年スローガン



京都府立城陽支援学校のホームページを御覧いただき、ありがとうございます。

校長に就任し2年目になりました 田淵 泰史 です。よろしく願いいたします。

京都府立城陽支援学校は、城陽市の東南部、国道 307 号線沿い、青谷の梅林に囲まれた緑豊かな地に建てられています。国立病院機構南京都病院に隣接し、周囲には養護施設や養護老人施設などが集まり、いわば城陽市の

福祉施設ゾーンの中に位置しています。

本校には、異なる教育課程の3つの教育部があります。

「重心教育部」は、「生命の輝く教育」をモットーに、南京都病院に入院している重症心身障害児を対象に、病院と連携し医療的ケアを実施しながら、一人一人の障害や課題に応じた教育を学校や病棟内で行っています。小学部・中学部・高等部の児童生徒が学習しています。

「病弱教育部」は、ぜんそくや腎炎、肥満症、神経疾患などの慢性疾患や、小児心身症などのために、小・中学校での生活が困難で、南京都病院に入院している児童生徒達が、病気治療と学習を両立させながら学んでいます。基本的には一般の小・中学校で行われている教育課程に準じた教育を行っています。

高等部「ビジネス総合科」は、山城通学圏内の中学校・特別支援学校中学部を卒業した公共交通機関を利用した通学が可能な軽度知的障害を有する生徒を対象とした教育を実施しています。自立し就労をとおして地域や社会に貢献するために必要な基礎的学力の充実を図り、企業就労という進路希望の実現のため産業現場等における実習を計画的に実施しています。

また、各府立特別支援学校に設置されている地域支援センターとして、本校では「サポートJ OYO」を設置しています。主に不登校児童生徒の支援を行っています。

このように、3つの異なる教育課程が存在する本校ですが、学校目標「いのち輝かせ、こころ豊かに生きる力を育む」を達成するために、校内での交流及び共同学習を行い、3つの教育部が1つになった学校として、医療との日常的な関わりと、広い地域とのつながり、そして命を大切にしながら、自立と社会参加をめざした学習をしています。

本年度は、開校40周年となる節目の年となりました。昭和54年(1979年)に養護学校(現:特別支援学校)の義務制が実施され、前の年まで就学猶予・免除者として学校に通っていないかった約一万人にのぼる児童生徒数は大幅に減りました。しかし、隣接する国立病院機構南

京都病院に入院している子どもたちは、病院の敷地内での訪問教育から始まり、分教室や分校として学習していました。昭和61年(1986年)に今の校舎が完成し、城陽養護学校(現:城陽支援学校)が開校されました。当時の記録に「病院と同じ環境の校舎ができあがり、学校へ登校できるんだ!」「学校ができて、ぼくはうれしくてしかたない!」と当時の声が残っています。

本年度一年を通して「40周年イヤー」として、昔の学校を知られる先輩方のお話から学んだり、卒業生のお話を聞いたり、より3つの教育部の交流を深めたり、「今」の子どもたちの姿を見ていただいたりと企画を考えているところです。40周年を通して、子どもたちだけでなく、教職

員一同もこの城陽支援学校で学び、次のステップへの節目となればと願っています。

本校について、興味をお持ちの方はどうぞ遠慮なされずに御連絡ください。また、これからも児童生徒の自立と社会参加に向けて御協力をお願いいたします。

令和7年4月

京都府立城陽支援学校

校長 田淵 泰史



30周年記念植樹「しだれ梅」
大きくなりました。



**ビジネス総合科の生徒が製作した抹茶茶碗で、
学校の桜の木の下で一服しました。うまい!**